

砂時計 第二号



特集

もういちど、

絵本の世界へ！

【インタビュー】

青田さんに聞く、絵本の魅力……………6

絵本屋さんにきいてみた！……………40

【エッセイ】絵本との思い出……………45

桐崎 鶉・宮川 漣・安藤涼香・きみどり

都築なつ・金烏玉兎・かくた・音無早矢

【論考】

日英比較による『はらぺこあおむし』

における「あおむし」の人物形象考……………60

【ブックレビュー】

大江那果・かくた・音無早矢……………63

◆小説◆

リバーシブル……………都築 なつ

私はこれから仕事へ行く……………桐崎 鶉

えのきを食べる話……………音無 早矢

◆詩◆

しつけ……………きみどり

なおせないかたより……………きみどり

一四〇字くらいの詩 二編……………音無 早矢

◆戯曲◆

異食民……………かくた

◆俳句◆

正と負は釣り合わない……………村上 海斗

おおきなかけら……………村上 海斗

タイムセール待機ガチ勢……………かくた

毒したためて……………宮川 漣

透明感がほしい……………音無 早矢

『砂時計』俳句評……………橋本 喜夫
『砂時計』俳句作品評……………瀬戸優理子

118 107

◆短歌

フォークロア、フォークロア……………桐崎 鶉
晴れやかな夢……………安藤 涼香
こいびとがほしい……………音無 早矢
サスペンスドラマは好き?……………音無 早矢
連れてって……………宮川 漣
辞意と流れ……………村上 海斗
『砂時計短歌作品評』……………吉田 慎司

129 128 126 125 124 123 122

◆戯曲Ⅱ

ブドリのスイッチ……………かくた

134

◆詩Ⅱ

一四〇字詩 ①……………大江 那果
流刑地……………大江 那果
一四〇字詩 ②……………大江 那果
モノクロオム……………大江 那果

144 143 141 140

◆小説Ⅱ

或るわたしのこと……………大江 那果
起こりえぬる話 イヌ・ネコ……………金鳥 玉兔

161 146

◆エッセイ

君の名前はなんだっけ?……………大江 那果
【検証】貧乏学生に
旅行はできるのか!?……………かくた

164 168

◆同人紹介

……………

172

◆編集後記

……………

174

『いるのいないの』

京極 夏彦 作
町田 尚子 絵

ホラー映画やお化け屋敷が苦手です。それを自覚してから、学校祭のお

化け屋敷にも入ったことがあります。けれど、恐怖を生み出すテクニクには興味があります。体験型のお化け屋敷を企画する人（ホラープランナー、またはお化け屋敷プロデューサーというらしいです）の著作を読んだこともあります。

そして、怖い文学作品は大好きです。特に、小説家・京極夏彦の作品群はどれも大好きです。彼の作品を読んで、優れた恐怖が一流のエンターテインメントになることを知りました。

僕が紹介するのは、その京極夏彦が文を書いている絵本です。タイトルは『いるのいないの』。絵は町田尚子とい

う方が描いています。

田舎にある祖母の家に住むことになった少年が主人公です。祖母の家は古い日本家屋で、天井が高くて、太い梁が通っています。天井の近くに小さな窓がありますが、そこから上はとも暗いのです。

少年は気になって何度も上をみます。そしてある日、窓の横くらいのと

ころに怒った男の顔をみるのです。ストーリーを整理すると、とてもシンプルですが、それを紹介してしまってもこの物語の魅力は損なわれません。ストーリーを知っていたとしても、この作品は充分に楽しめます。

恐怖は想像力によってもたらされます。「こわいことが起きる」よりも「こ

わいことが起きそう」の方がこわいのです。何故なら、こわいことが起きてしまつたら、その恐怖はそこで終わってしまうからです。

この作品は、その「こわいことが起きそう」という状態を非常にうまく表現しています。僕が考える不穏な雰囲気をもたらす要素は主に三つあります。

一つ目は絵です。町田尚子の絵はリアルで質感があります。けれど、妙につるりとしているのです。質感があるのにつるりとしているというのは矛盾しているように思えるかもしれません。しかし、その相反する性質をたしかに内包しているのです。たとえなら、本物と見分けがつかないほど精巧

に作られた食品サンプルでしょうか。リアルなのにどこか本物とは違う——そういうある種の不気味さがあるので

す。
二つ目は少年と祖母の会話です。少年は男の顔を見たあと、祖母に相談します。そのやりとりの一部を引用してみましよう（句読点は作者補足）。

「上をみなけりゃこわくないよ」

「みなければいなくなるの？」

「さあ、見ないから、いるかいなにか、わからないよ」

二人のやりとりは微妙にすれ違っています。少年はもうすでにみてしまった人間の視点で、祖母はみていない人間の視点で語っているのです。このすれ違いが恐怖の本質を突いているように思えます。しかし同時に、言いようのない不安を呼び起こすのです。

ちなみに、少年が男の顔をみたシーンでは、それに驚いている少年しか描かれていません。読者はこの問答を読んでいるとき、男の顔をみていないのです。立場的には、祖母に近いと言えます。けれど、読者は薄ぼんやりとし

た恐怖を感じてしまいます。祖母は超然とした存在に思えるのです。感情では少年に近いと言えます。

雰囲気をつくっている二つ目の要素としては、描かれているたくさん猫が挙げられます。祖母の家にはたくさん猫が棲みついているのです。猫屋敷、と呼んでもいいほどです。何故こんなにも猫がいるのか、説明もなく、少年も何も触れません。それがとても不穏なのです。絵の隅で、猫が読者に向けて目を光らせているページもあります。

猫と同じくらいに作品全体の雰囲気をつくっているのが、光と陰のコントラストです。これ三つ目の要素です。

作品の絵のほとんどで、明るい場所と暗い場所が対比されています。暗い天井付近と明るい生活スペースという対比が代表的です。ただ暗いだけではなく、光をあえて入れることで暗さを強調しているのだと思います。また複数のページで光の役割を果たしているのは、開けっ放しにされている扉や窓です。田舎では戸締りが甘いというの

はあるあるですが、それが理由で良くない何かが這入り込んでいるのではないかと考えてしまいます。

この作品では以上のような要素を巧みに描き、語るることによって読者の想像力を働かせます。

これだけ論じてきましたが、この作品の魅力を十分に伝えられたとは思いません。実際に体験することに勝るものはないのです。ぜひ、読んでいただきたいです。

（この結論が自分の首を絞めていると気づきました。お化け屋敷、行ってみようかな……）

〈岩崎書店・一五〇〇円＋税〉

文Ⅱ大江 那架

『どうぶつえんガイド』

あべ 弘士 作・絵

まず、サブタイトルのように、表紙に「よんでたのしい！ いったのしい！」と書かれている。読む前から楽しくなってしまう。

ページをめくると現われる動物たちの絵は、よくある絵本みたいな上手な絵とは少し違う。なんだか細い線がぐるぐるしていたり、色の塗り方が勢いよすぎたりする。だがどの動物も、どこか目の前にいるような臨場感がある。写真みたいにそっくりそのままな訳でも、マンガみたいに分かりやすい形をしている訳ではないのに、何故だろう。それはきっと、作者のあべ弘士さんが実際に動物園で働いていたことがある人だからだろう。生きた動物たちを目の前でたくさん見てきた作者だ

から描ける絵なのかもしれない。

それから忘れてはいけないのが、動物たちのおもしろい紹介文だ。著作権に関わるので引用は控えるが、これがまた絶妙だ。まずもって、動物たちの生態がよく分かる。大人でもこの本を読んで初めて知るような生態もあるだろう。しかし一番の魅力は、ディープな生態をおもしろく伝える語り口にある。語りかけるように、フランクに、色んなたとえを出して分かりやすく。なんだか、あべさんが実際に動物園に来た子どもたちに、お話をしてくれているみたいだ。

「よんでたのしい！ いったのしい！」は伊達じゃない。すっかり隅々まで読んだ事だし、今度旭山動物園に

行ってみよう。

〈福音館書店・一六〇〇円＋税〉

文川かくた

『せいめいのれきし』

バージニア・リー・バートン 作・絵

いしいももこ 訳

理科の教科書これで良くないか？

冗談はさておき、この本は太陽の誕生から現代までの生命の移り変わりや人間の営みを丁寧に描いた一冊だ。普通に勉強になる。人間の暮らしを描いた場面では、アメリカの農場の一年が紹介されるため、都会に疲れた私たちの癒しとなるだろう。私はちよつと実家を出した。

そして特筆しなくてはいけないのが、この本は舞台仕立てで構成されているという点である。生命の歴史が全てステージの上で広がるのだ。時代が変わるたびに場面は変わっていき、次々に進化した動物や変化する自然が目の前に現れる。文章が語りかける文体であるのも、読み手を観劇している

ように感じさせる工夫の一つである。

この本は、読み聞かせ向けの本であるように感じた。まず、文には大人が読んでも勉強になるくらい詳しいことが書かれている。理科で既に勉強をした中学生ならともかく、小さい子どもたちには読んであげるのが親切だろう。また、絵の色使いは優しく眺めやすい。そして細かく描き込まれているため、文を読む声を聞きながら絵の色々な所を見る事ができる。一度読んだだけでは絵の全てを注視できないだろう。何度読んでも楽しめる。最後に、私はこの本の終わり方にしびれた。時間を追って進む展開と舞台仕立ての設定を生かした結末になっているのだ

が、これは内容を言ってしまうのが忍びない。是非、手に取って確かめてほしい。きっと、次に迎える朝は晴れやかであろう。

〈岩波書店・一七〇〇円＋税〉

文川かくた

『あかいじどうしゃ よんまるさん』

堀川 真作

この本は先に紹介した二冊とは異なり、ポップな絵と分かりやすいストーリーのお話からなる絵本である。よくある絵本の形式とでも言えればいいだろうか。

ひとしおだ。

また、この話の登場人物はみんな優しい。よんまるさんの持ち主であった夫婦はよんまるさんをととても大事に思っているし、ねずみはよんまるさんが大好き。よんまるさんもまた、夫婦やねずみのことがとつても大好きだ。だから、誰々がひどい！などのマイナスの気もちになることなく、純粹によんまるさんを応援し、よんまるさんの復活を喜ぶ事ができる。読んでいるときも読んだ後も、心がどこかあったかくなる一冊なのである。

「よんまるさん」と呼ばれる車を主人公として話は始まる。ストーリーとしてはボロボロになったよんまるさんが修理されてまた活躍する、というシンプルなものだが、語りが徹底してよんまるさんに寄り添っていることが特徴の一つであろう。読み手は自然とよんまるさんの気もちを想像してしまい、作中に登場するねずみと一緒によんまるさんを励ましたくなる。だからこそ、修理が終わってびかびかになったよんまるさんと再会した時の喜びは

〈福音館書店・九〇〇円＋税〉

文||かくた

『あおくんときいろちゃん』レオ・レオーニ 作

藤田 圭雄 訳

絵本の世界では、動物たちが言葉を話します。動物だけではありません。ときには無機物すらキャラクターとして動き出します。

その擬人法の極致にあるのが『あおくんときいろちゃん』という絵本です。この絵本に登場するのはタイトルにあるように「色」なのです。主人公は「あおくん」で、ストーリーはとてもシンプルなものなのです。

最初に「あおくん」の家族と友達を紹介して、一番の友達である「きいろちゃん」が登場したあと、色たちの日常を描かれます。そしてある日、「あおくん」は「きいろちゃん」と遊ぶために「きいろちゃん」を探します。出会えた二人は嬉しくて、混ざり合い、

緑色になるのです。しかし、緑色になつてしまった二人は、両親に自分たちの子どもだと認識されなくなつてしまいます。悲しくなつた二人は大粒のあおときいろの涙を流した結果、元に戻ることができました。それから、二人はお互いの自分の半分だけを緑色にして、両親に事情を伝え、みんなで喜びを分かち合うのです。

この作品の大きな魅力は、「色」を登場人物にしたという抽象性の高さ、それと対比できるほどわかりやすいストーリーです。

読者は、この本から様々なものを読み解くことができます。この絵本の見開きには、この物語は人と人の相互理解だというのが書かれています。

た。そして、本誌でインタビューを行った青田正徳さんは、この絵本の最後のページに描かれている緑色は地球を表している」と解釈されていました。

僕もそれらの解釈にとっても感銘を受けたのですが、ここではあえて別の解釈や楽しみ方を紹介しようと思ひます。

僕が紹介したいのは、「何故ここはこの色なのだろう」と考えるという楽しみ方です。

たとえば、どうして主要な登場人物は青色と黄色なのでしょう。僕は青田さんの解釈が好きなので、「緑色をつくりたかったから」だと考えています。

では、「あおくん」と「きいろちゃん

ん」の家はオレンジに近い色をしています。どうしてなのでしょう。僕はこれを考える上で色相環の考え方を引用してみました。

色相環で、オレンジ色は青色の対極にあります。この関係を色の世界では補色と言います。コントラストが高く、お互いの色を引き立て合う組み合わせだそうです。

また、色相環でオレンジと黄色は逆にとても近い位置にあります。この関係を隣接色相と言い、補色とは違って統一感があり、柔らかい印象になる組み合わせらしいです。

作者のレオ・レオーニはもともとグラフィックデザイナーでした。色の知識は豊富だったでしょうから、きっとこの配色も意識的なものだと考えられます。

こうやって考えていくと、すべてのページの色が気になります。「あおくん」のほかの友達には何人かだけとても近い色が使われています。また、「あおくん」が「きいろちゃん」を探しているとき、黒い場所と赤い場所を

通ります。もつと言えば、学校は黒色で表現されています。これらは何を表しているのでしょうか。気になるところがたくさんあって、想像が膨らみます。

こうやって、この作品は高い抽象度を持っているからこそ、様々な解釈が可能なのです。一方で、わかりやすいストーリーだからこそ子どもにはすんなり伝わるでしょう。

でも考えてみると、僕たちは言い方は悪いですが、ただの色に感情移入をして、ストーリーを楽しむわけです。ここから僕は、人間の高い想像力のすばらしさを感じてしまいます。

みなさんもぜひこの絵本を読んで、自分の、あるいはほかの人の想像力を楽しんでみて下さい。

〈至光社・一二〇〇円＋税〉

文Ⅱ大江 那果

『きつねのおきやくさま』

あまんきみこ 作

二保英五郎 絵

教科書に載っている物語には、きつねがよく出てくる気がする。『ごんぎつね』や『きつねの窓』、『きつねのおきやくさま』もその一つだ。

日本では、古くからきつねが昔話や童話に登場しており、慣れ親しんでいる人も多いだろう。そして、そこで語られてきた「ひとをだます、ずるがしこい」というイメージを持っている人も多いのではないだろうか。

『きつねのおきやくさま』もそういったきつね像で描かれている。ただし、「ああ、きつねはずるがしこいんだな」というだけで終わるわけではない。

作中では、すみかにこまった「ひよこ」を太らせて最後に食べてやろうとたすける。とてもずるがしこい印象だ。

しかし、ひよこから感謝の言葉を聞くようになってから、きつねの計画は狂いだす。

ある日、ひよこが散歩に行こうとすると、逃げ出すんじゃないかとおもったきつねはあとをつけていく。するとひよこはこれまたすみかにこまったあひるに出会うのだ。そこで、ひよこは「親切なきつねがいる」ときつねの家を紹介する。「親切」ということばにぼうつとなりながら、きつねは二匹に親切にしてやる。

そのまたある日、ひよこことあひるが散歩に出かけると、またもや逃げ出すと思ったきつねがあとをつけていく。すると二匹はすみかを探しているうさぎに出会うのだ。二匹はここでもきつ

ねを「神様みたい」と紹介する。きつねはきぜつしそうになりながら三匹に親切にしてやる。

ここまで、「親切」や「神様みたい」といった言葉にふりまわされながらも、「まるまるふとつてきたぜ」とずるがしこさを残しているのだ。だが、転機が訪れる。

山からおおかみが、獲物をねらってきたのだ。「こりやうまそうなおいだねえ。ふんふん、ひよこに、あひるに、うさぎだな」

おおかみのことばにきつねは「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ」と飛び出していったのだ。その体には、勇気がみなぎっていた。

いさましく戦ったきつねは、「はず

かしそうに」死んでいった。

この作品では、ずるがしこいきつねが無垢なひよこたちによって変えられていく様子が描かれている。最初は食べるためにだましていたひよこたちに「やさしい」「親切」「神様みたい」と伝えられていくうちに、ひよこたちの存在が「誰よりも守りたい存在」へと変わっていったのである。どんなにずるがしこい人でも、周りに影響されて変わっていくこともあるのかもしれないと感じさせてくれる作品だ。

〈サンリード・一八〇〇円＋税〉

文||音無 早矢